

論文要旨

動的映像資料の組織化に関わる専門的・技術的問題の検討と作業手順の開発

—在日朝鮮人関係資料室の収集資料を対象に—

李東真

本論文は、これまで、効果的なアクセスが困難であった動的映像資料の利用を促進するために、特定資料群における「組織化の不備」の問題に焦点を当て、その解決方法の研究と実施手順の開発について示したものである。

各章の要約

第1章では、動的映像資料が持つ価値を述べた後、本研究で対象とする資料の公開機関である在日朝鮮人関係資料室および資料の出所である総聯映画製作所の概要を示した。また、本研究では、動的映像資料へのアクセスを阻害する3つの主要因（「物理的消失」「散逸」「組織化の不備」）のうち、「組織化の不備」の解消を試みる旨を記した。

第2章では、動的映像資料を利用に供するための既存のプロジェクトを概観し、本研究が参考にし得るものとその問題点について明らかにした。また、本研究で利用可能な動的映像資料の目録に関する先行研究、本研究の中心的課題であるインデクシングの必要性を示唆する研究、および、その方法論を示した関連研究を紹介した。

第3章では、動的映像資料の記述目録の作成について検討した。具体的には、目録作成作業において標準目録規則を利用することの効果、ならびに標準の選定にいたるまでの考察とその結果を示した。本研究で利用を検討した標準目録規則は、日本目録規則1987年版（NCR1987）、英米目録規則第2版（AACR2）、FIAF目録規則である。標準目録規則の選定において、「非作品資料の取り扱い」「形態的記述の方法」「目録レコードの作成の単位」の観点から評価して、本研究ではFIAF目録規則を利用することとし、その利用の際に留意

すべき点を指摘した。

本章では、動的映像資料のメタデータの作成について検討するために、補節を設けた。2012年の在日朝鮮人関係資料室の設立に伴い、資料の利用、公開機能がそこに移されたため、資料館内で資料を検索・閲覧するためのツールが求められるようになった。総聯映画製作所から在日朝鮮人関係資料室に提供される動的映像資料は、映画フィルムからデジタル化されたものであるため、FIAF 目録規則にもとづいて作成された目録には、利用者にとって不必要な情報（映画フィルムの形態的記述など）が含まれている。また、検索・閲覧するためのツールとなる情報システムには、動的映像資料以外の在日朝鮮人関係資料との統合検索の機能が要求される。以上のことを踏まえ、本研究では、ダブリンコアに準拠したメタデータを作成し、それらを蓄積し利用するための検索・閲覧システムを構築することとした。

第4章では、記述目録の作成によって生成されるアクセスポイントの限界と主題アクセスおよび部分アクセスの必要性について論じた。記述目録の作成により、資料への最低限のアクセスは可能となるが、実務家を中心に主題アクセス、特に部分アクセスの重要性が指摘されている。Andreano (2007) は、動的映像資料へのアクセス自体が困難であることに加え、アクセスできたとしても、特定の場面を検索するまでに時間がかかりすぎるとし、これが動的映像資料の利用が少ない原因であると指摘している¹。そのほかにも、Terris (1998) が、動的映像資料を求める利用者の半数以上が特定の場面の検索を求めていると述べ、ショットリストの作成の必要性を指摘している²。同様のことは、在日朝鮮人関係資料室の管理者、利用者からも指摘されている。以上の指摘にもとづいて、本研究では部分

¹ Andreano, Kevin. The Missing Link: Content Indexing, User-Created Metadata, and Improving Scholarly Access to Moving Image Archives. *The Moving Image*, 7(2): 82-99, 2007.

² Terris, Olwen. "There Was This Film About... The Case for the Shotlist", *Journal of Film Preservation*, 56: 54-57, 1998.

アクセスを提供するための方法を検討したが、その機能を実現するには大きなコストを要する。そのため、本研究では作業の効率化、とくに費用や時間の節約を目標に、Turner (2010)³が提案した「脚本」「撮影文書」「クローズドキャプション」などのテキストを再利用 (recycling text) したインデクシングの方法を模索した。総聯映画製作所では、業者に現像を依頼する際、双方が内容を確認するために「カット表」を作成していた。「カット表」は、ショットレベルのインデクシングの手順とほぼ同様のプロセスを経て作成されたものであるため、それを再利用することには、十分な合理性があると考えられる。ただし、「カット表」の記述には、不十分な点が残されていたため、その点を補充し、「カット表」からショットリストを作成した上で、ショットレベルのインデクシングに利用することとした。最後に、ダブリンコアを拡張した Hunter & Iannella (1998)⁴ のモデルを再構成し、ショットリストをメタデータに組み込む方法を検討した。

第5章では、第4章のショットレベルのアクセスによって生じる検索対象の増大、そして、ショットリストの作成段階における作成者間による語の選択のゆれなどの問題を解消する方法として、シソーラスの構築を提案した。ショットレベルのアクセスを実現するために作成したショットリストは、自由語による記述である。ショットリストに記されている語をそのままインデクシングに利用すると、検索モレやノイズなどの問題が大きくなる可能性がある。本研究では、この問題を解決するために、統制語彙の導入を検討した。その際、本研究の対象資料が「在日朝鮮人関係」という特殊な主題を有している点を踏まえ、汎用的な統制語彙を適用するのではなく、独自にシソーラスを構築することとした。ここでは、「用語の収集、選択、収録」法、「構造の決定」法、「階層関係と関連

³ Turner, James M. "Moving Image Indexing", *Encyclopedia of Library and Information Sciences*, 3rd ed., Boca Raton FL, 3671-368. 2010.

⁴ Hunter, Jane and Iannella, Renato. *The Application of Metadata Standards to Video Indexing*. In *ECDL 1998*, volume 1513 of *Lecture Notes in Computer Science*, 514. Springer Berlin / Heidelberg, 1998.

の付与」法を検討し、動的映像資料のためのシソーラスの構築、管理、更新法を示した。

第6章では、資料の公開機関向けに検索・閲覧システムの構築について検討した。本研究では、OSS（Open Source Software）に注目し、これを活用した検索・閲覧システムの構築方法を提案した。プロトタイプ的设计には、データベースの设计与検索アプリケーションの设计が含まれる。データベースの设计では、論理设计に焦点をあて、正规化の手順とE-R図の作成手順を示した。検索アプリケーションの设计では、システムに搭載する機能の概略を示した。

第7章では、これまでの研究の要点として、以下の4点を挙げた。

- (1) 目録作成作業およびインデクシングの手順の開発において、理論モデルを参照しつつ、動的映像資料の特殊性を加味し、その上で、実務に適した枠組みを提案した。
- (2) 目録作成作業において、標準を利用することにより、一貫性、継続性などを損なうことなく、作業を大幅に省力化する方法を示した。
- (3) インデクシングの作業においては、既に存在する「カット表」を活用することで作業の効率化を図り、目視でわかる事柄からインデクシングを始める手順を示した。
- (4) シソーラスを整備することにより、検索作業の効果が高まると同時に、ショットリストについてもより精緻なものが作成でき、そのことがインデクシングや検索の効率を高めるという好循環をもたらす方法を提案した。

以上のように、本研究は、限られた人的資源や経済的資源のもとで、特定の主題領域に関わる動的映像資料の組織化を効果的・効率的に行って、利用者の検索や調査の改善に資する実際的方法を開発したものであることを示した。